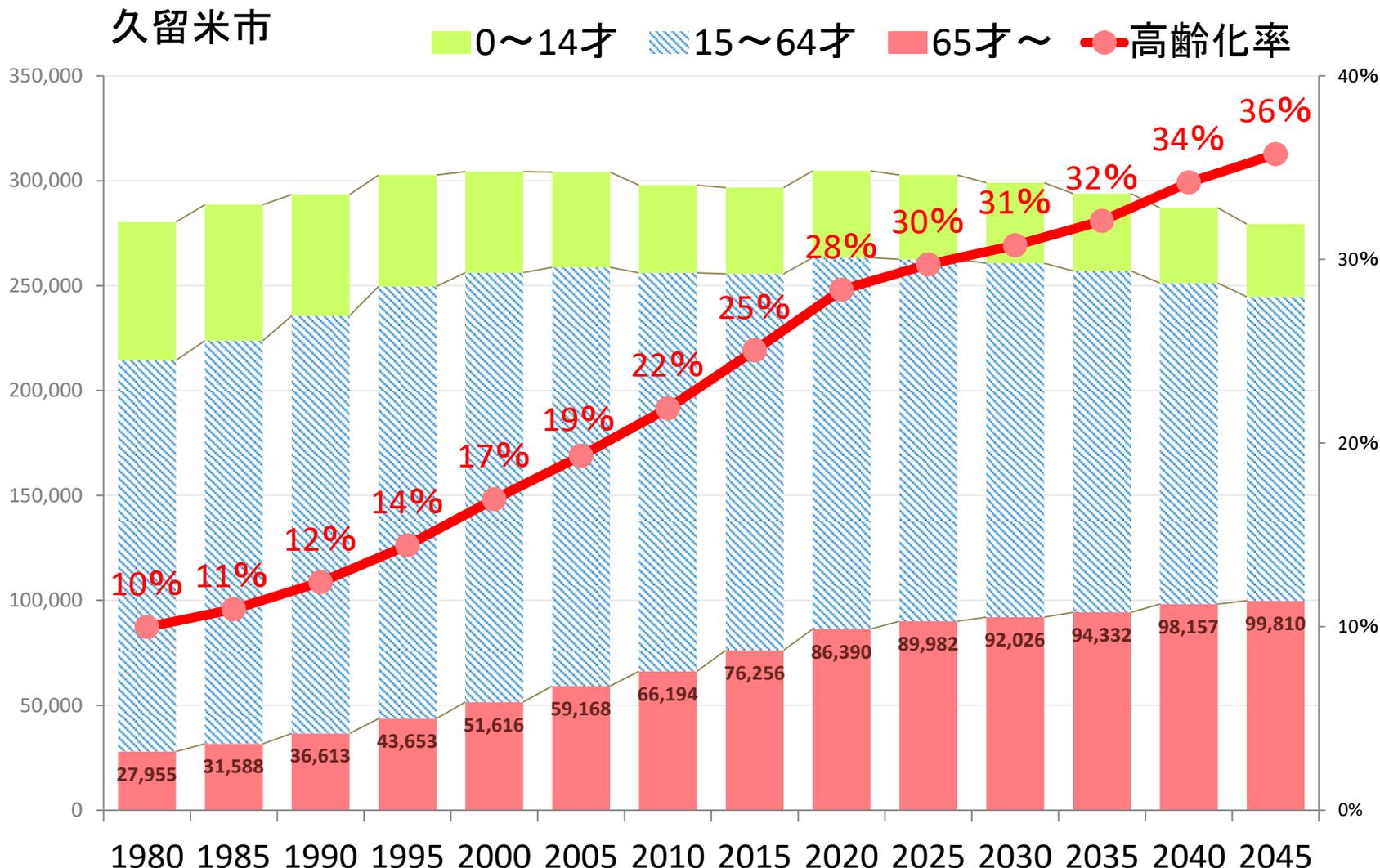


久留米市の 人口構造の変化と認定者数

今後も続いていく高齢化

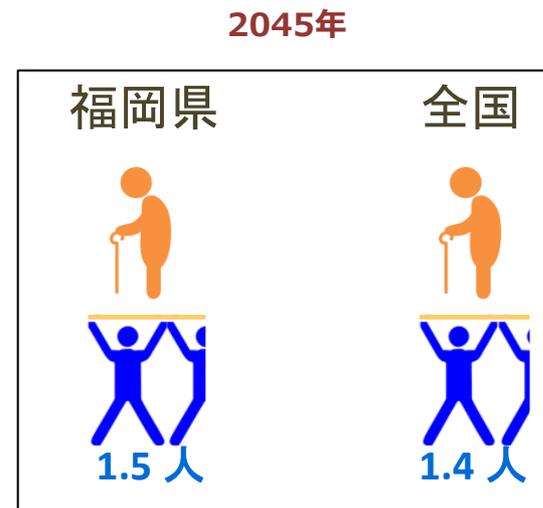
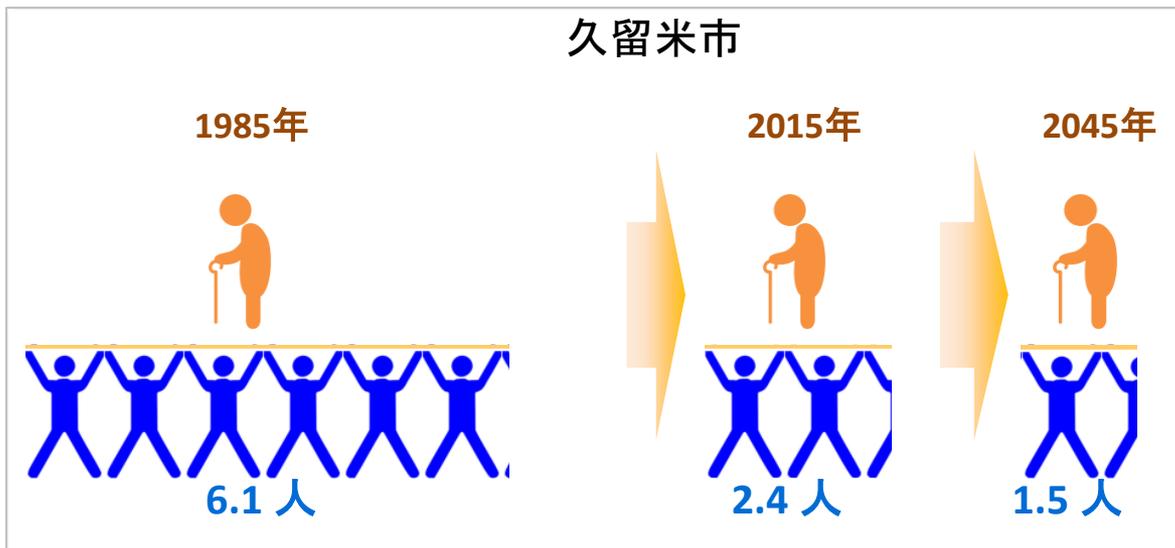
- 久留米市の高齢化率は2020年時点まで大きく増加して来たが、今後は増加率がゆるやかになりつつも、増加していく。
- 2040年に高齢化率は34%となり、人口の約3分の1が高齢者となる。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」のデータから作成

高齢者人口を支える生産年齢人口の割合の減少

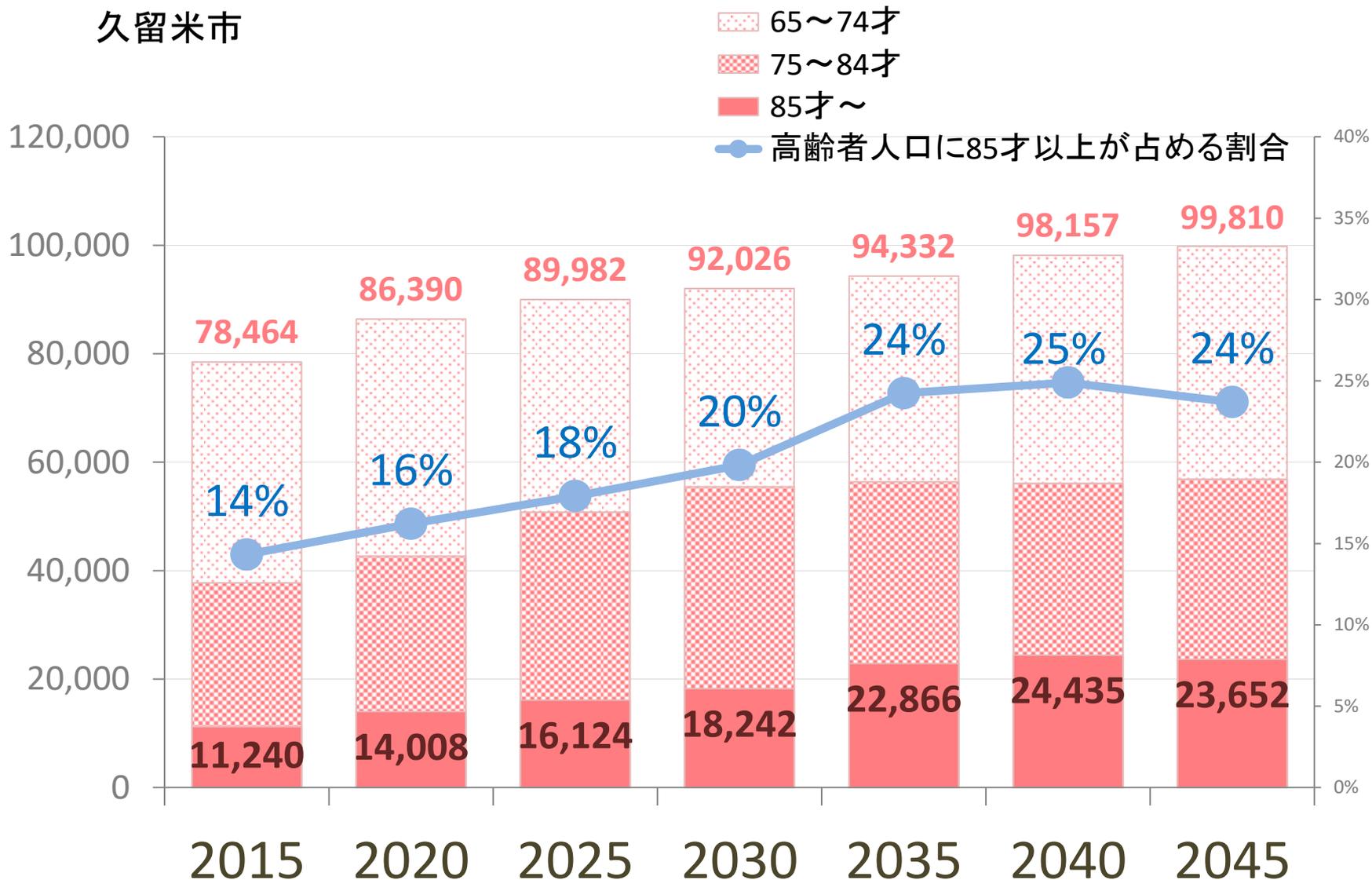
- ・久留米市における**高齢者人口（65才以上）を支える生産年齢人口（15～64才）の割合**は、1985年時点で6.1人であったが、2015年時点では2.4人となり、**2045年時点では1.5人**となると予測されている。
- ・同じ2045年時点で、全国は1.4人、福岡県は1.5人であり、久留米市は、福岡県の平均と同程度となる。
- ・**介護人材不足**は、全国共通の課題であるが、**久留米市においても、深刻な問題となっていく可能性がある**。



85才以上人口増加は、認定率の増加につながる

- ・ **85才以上人口の割合**は、これまで微増傾向だったが、2030年から2035年にかけて大きく増加する。
- ・ 85才以上での認定率が高いため、**85才以上人口の割合が多いと、認定率を強く押し上げる要因**となる。

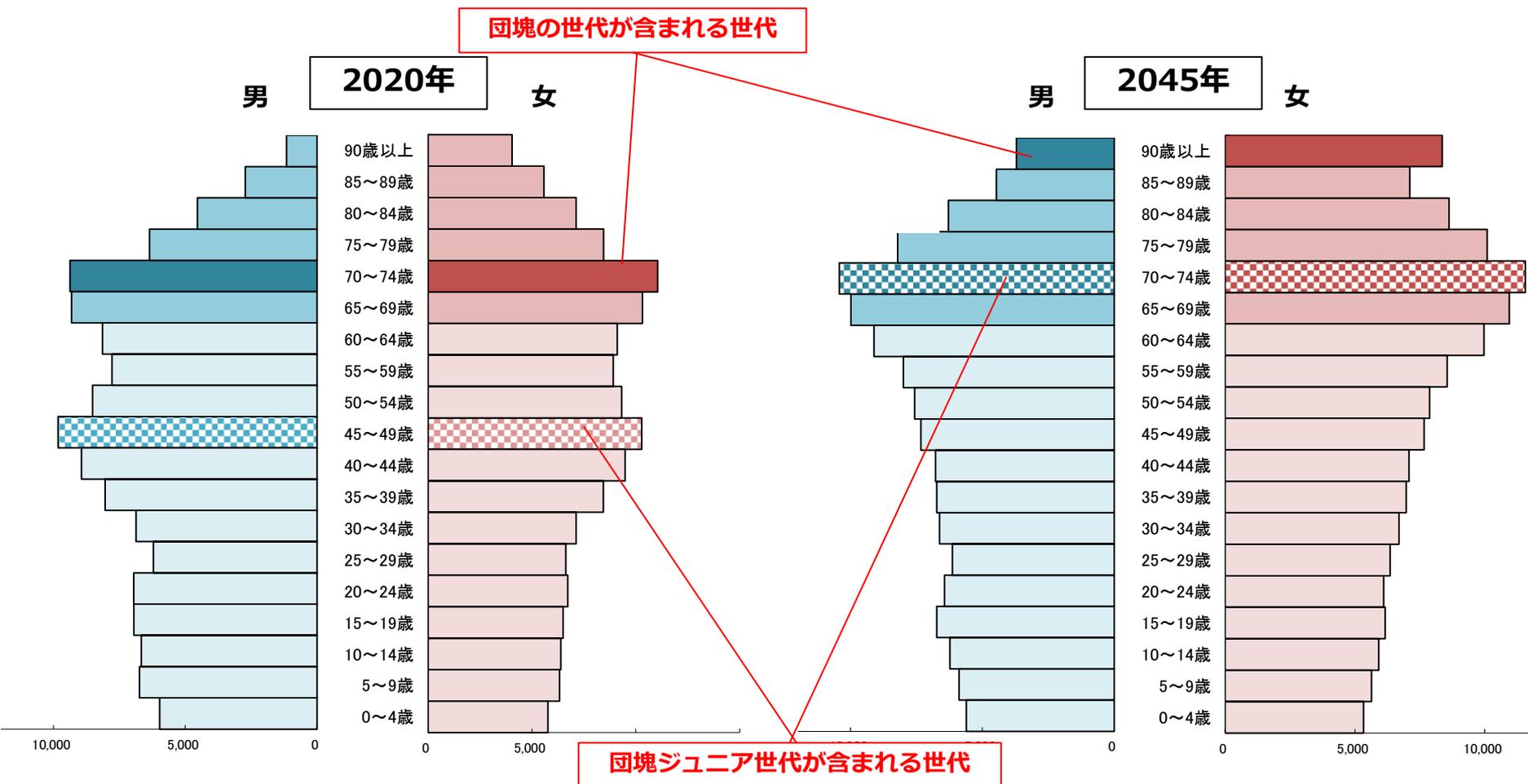
久留米市



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」のデータから作成

人口構造が認定率に与える影響

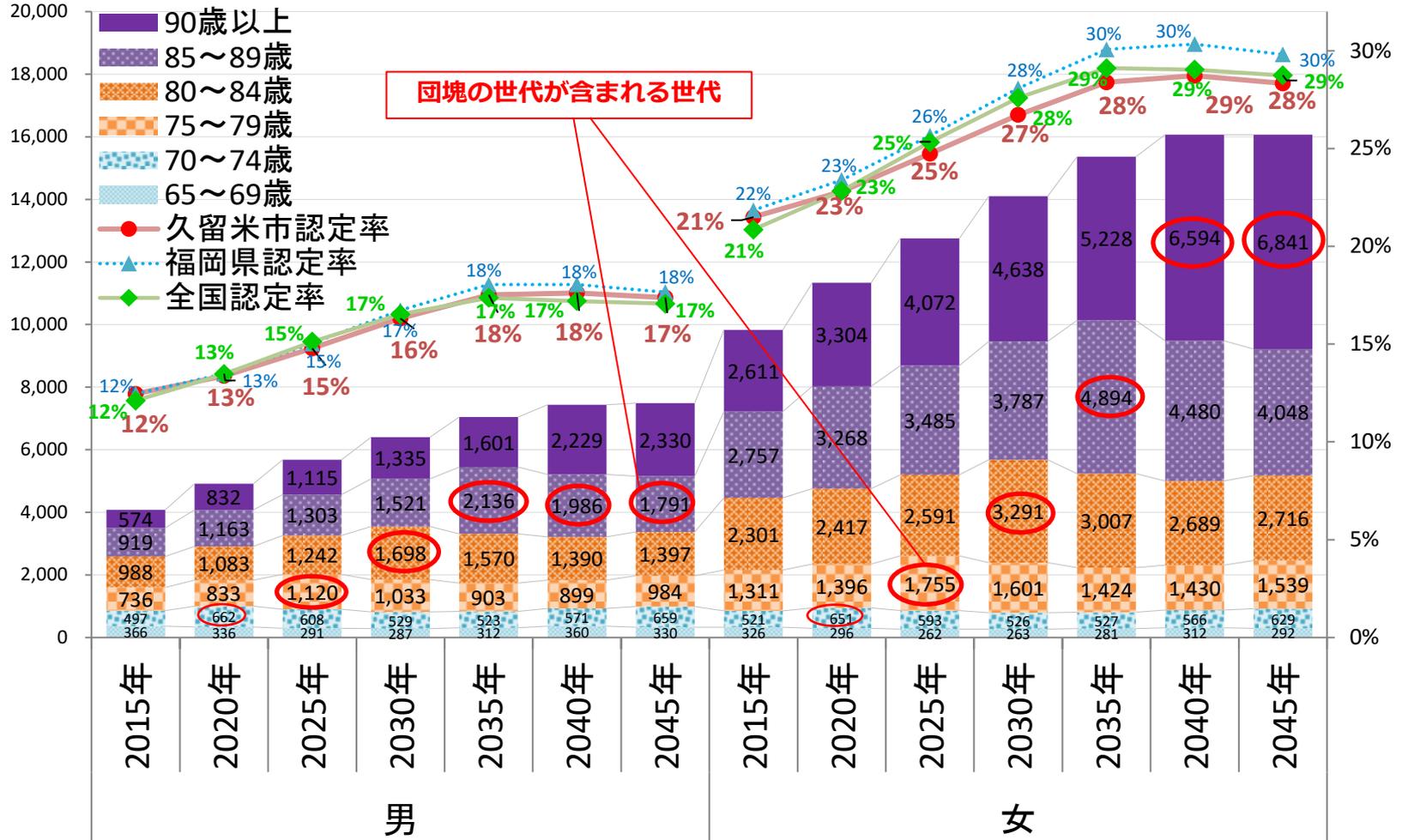
- ・ 2022年に団塊の世代が75才を超え、さらに加齢していくにしたがって、団塊の世代の認定者数は増えていく。
- ・ 団塊の世代は人口が多いため、市全体の認定者数も増加する。
- ・ 高齢者全体に占める団塊の世代の割合が大きいため、市全体の認定率も上昇する。
- ・ 団塊ジュニア世代人口が高齢者となる2035年以降は、生産年齢人口の割合が大きく減り、高齢者人口の割合が大きく増えるため、高齢化率が上昇し、「高齢者人口を支える生産年齢人口の割合」が一段と低くなる。



久留米市の認定率の将来推計

- ・ 2022～2024年は**団塊の世代が75才以上に突入し、75才前後の介護予防の重要性がひとときわ高い時期。**
- ・ **団塊の世代が加齢するにつれ、認定率は、2040年まで大きく増加していく。**

久留米市の性別年齢階層別認定者数および性別認定率の将来推計



資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」による性別年齢階層別推計人口に対して、2022年4月1日時点の性別年齢階層別認定率を掛け、弊社にて推計